

令和6年度  
(2024年度)

# 学校関係者評価報告書

令和6年(2024年)4月1日から  
令和7年(2025年)3月31日まで

令和7年(2025年)8月29日

学校法人吉田学園  
北海道スポーツ専門学校

## ■令和6年度 学校関係者評価について

〈説明〉

自己評価の評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、本校と密接に関係する卒業生・関係業界・専門分野の関係団体等の理解促進や連携協力による学校運営の改善を図ること等を目的に学校関係者評価を行った。

### 1. 実施日時

令和7年8月29日(金) 16:30～17:30

### 2. 実施場所

北海道スポーツ専門学校1号館 502教室

### 3. 実施方法

(1)実施組織 学校関係者評価委員会

評価委員	小野寺 隆彦	一般社団法人日本フットサルトップリーグ専務理事
	中西 康隆	ていね駅南口治療室代表
	金子 知	社会医療法人朋仁会整形外科北新病院
		スポーツ医科学センター長・リハビリテーション部長
	吉田 丘	公益財団法人北海道スポーツ協会事務局次長

○学校関係者

滝本 玲	北海道スポーツ専門学校 校長
大森 達也	北海道スポーツ専門学校 副校長
藤田 真	北海道スポーツ専門学校 学科長
今北 雄太	北海道スポーツ専門学校 副学科長
喜多 奎介	北海道スポーツ専門学校 教員

(2)評価基準:文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3)評価方法:令和6年度学校運営・教育活動実績報告書に対する学校関係者評価

### 4. 評価項目

次の11項目について実施

- (1)教育理念・目標
- (2)学校運営
- (3)教育活動
- (4)学修成果
- (5)学生支援
- (6)教育環境
- (7)学生の受け入れ募集
- (8)財務
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献
- (11)国際交流

### 5. 評価項目に対する評価

(1)4段階で点数評価

4:適切 3:ほぼ適切 2:やや不適切 1:不適切

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項

項目 1-1 教育理念・目標について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 1-2 教育理念・目標について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 2-1 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 2-2 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 2-3 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 2-4 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 2-5 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 2-6 学校運営について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 3-1 教育活動について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 3-2 教育活動について

- ・ 項目評価 3.9
- ・ 「1 コマ単位のシラバス作成」においては担当毎の作成となっており、取り纏め方法など改善の余地がある。

項目 3-3 教育活動について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 3-4 教育活動について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 3-5 教育活動について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 4-1 学習成果・教育成果について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 4-2 学習成果・教育成果について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 4-3 学習成果・教育成果について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 4-4 学習成果・教育成果について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 5-1 学習支援について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 5-2 学習支援について

- ・ 項目評価 4
- ・ 特に問題はなかった。

項目 5-3 学習支援について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 5-4 学習支援について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 5-5 学習支援について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 5-6 学習支援について

- ・ 項目評価 3.5
- ・ 保護者との連携や三者面談の実施等については適宜実施しているものの、個別対応が中心となっ

しており、計画的な相談会、面談等となっていないため、年度計画を立てるなど改善策を立てると良い。

#### 項目 5-7 学習支援について

- ・ 項目評価 3.7
- ・ 卒業生への卒業教育について、各種資格の更新講習等と連動を期待する。

#### 項目 6-1 教育環境について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

#### 項目 6-2 教育環境について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

#### 項目 6-3 教育環境について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

#### 項目 7-1 学生の受け入れ募集について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ パンフレットの部活動ページの見せ方の検討が必要と感じる。

専門性を高めるための部活動であり、「部活のために通っている」という印象を与えない工夫が望ましいと思う。併せて、部活動をより活用する形で特色を出すなど、色を付ける工夫をし、「この学校に通わせたい」と思えるパンフレットにすることが大切。

また、現状のパンフレットは内容が散らばっている印象がある。トレーナー科の活動も分散して見えるため、全体を一つにつなげて「常にトレーナーとしてこの競技に取り組んでいる」という流れを強調した方が良いと思う。

⇒学校としてもジレンマを抱えている部分。専門学校で本格的に部活動を行っている例は少なく、部活動は学生募集の大きな魅力の一つであり、財務状況を安定させる上でも本校の強みとなっているが、部活動の見せ方について工夫していく余地がある。部活動を通じて学べる部分を我々は大切にしており、その点をしっかり押し出せるパンフレットの作成やカリキュラムの構築が、今後の大きな課題になると考えている。

単に部活動を行うだけでなく、部活動を通して専門性が磨かれ、就職につながる部分をもつように見せるかが重要であると、ご意見をいただき改めて感じた。

- ・ オープンキャンパスが学生募集の要となるかどうかは時代的に判断が難しいところだが、歴史の中で OB や OG が現場で大きく活躍している例を強みとして、より明確に打ち出すと良い。日本を代表する選手に関わっている卒業生と協力することで、隣校との差別化ができ、「やはり吉田学園の強みだ」という部分をより印象づけられると考える。

⇒保護者向けと高校生が求める内容をうまく組み合わせることで、さらに良いプログラムになるよう改善に努める。

#### 項目 7-2 学生の受け入れ募集について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 7-3 学生の受け入れ募集について

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 8-1 教育の内部質保証システムについて

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 8-2 教育の内部質保証システムについて

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 8-3 教育の内部質保証システムについて

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 8-4 教育の内部質保証システムについて

- ・ 項目評価 3.7
- ・ PDCA の「Do」以降のプロセス(Plan→Do→Check→Action)が形骸化している可能性は考えられるか。

⇒意識醸成、改善計画の実行・検証体制の見直しを検討する。

項目 8-5 教育の内部質保証システムについて

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 9-1 財務

- ・ 項目評価 3.5
- ・ 固定費に加えて変動費も含めた経常支出全体の見直しが必要。

項目 9-2 財務

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 9-3 財務

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 9-4 財務

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 10-1 社会貢献・地域貢献

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 東区連携で、具体的に取り組んでいる内容をお聞かせください。

⇒東区健康・スポーツまつりでの、ストレッチ、サッカー、野球ブースを学生主体で実施。  
また、YouTube で健康づくり運動の配信、モエレ沼爆走ソリ大会運営補助などを実施。

項目 10-2 社会貢献・地域貢献

- ・ 項目評価 4.0
- ・ 特に問題はなかった。

項目 11-1 社会貢献・地域貢献

- ・ 項目評価 3.0
- ・ 留学生以外にどのような受け入れがあるのか。

⇒北海道の南米移住者子弟留学・技術研修事業に係わり、技術研修員 1 名の受入を行った。

- ・ 当校卒業生が、インドネシアで幼児教育指導に携わっている。日本の教育・文化はアジア圏で需要があるため、意見交換の場を設けることができると良い。

⇒当校にも子どもの指導者を目指すコースがあり、海外に興味のある学生がいれば、今後ぜひ機会をつくっていただきたい。